



会報第4号

発行所
栃木県立真岡農業高等学校
同窓会
発行人
同編集部
印刷所
同印刷所
森田印刷所



どこを見たら どう向いたら

同窓会長 田上昇

毎日の報道は新しいことを次々と知らせてくれる。お陰で世の中に残り残すについていける。それを通して世間の移り変りはげしさに明暗色とりどりに考えられる。時には幸福感に躍り時には失望感に泣くこともあって自らを育てる姿をみる。

だがわれわれが信頼する政治家やお役人がそれに応えてくれない報道が多い。ロッキードやKDD等をはじめ政治家役人の不当所得、不当支出、親方日の丸組の公費の濫費等多すぎる。こうした政治の腐敗がなぜおきる。考えられるのは管理監督の怠慢だがそれを強化するだけでは嫌に針だ。

今更のようにわれわれ国民が自らの手での監守を怠って「あなたまかせ」にすぎたことに気がつく。ふだん日常時の関心事とした読者欄への寄稿等では余りにも生ぬるい。やっぱり選挙が早道だ。「清潔な政党は」「清潔な代表は」

の調べから始めよう。

選挙には金がかかる。金を配る人には投票しない。くれるというならいたゞいておく。政治家嫌いや選挙敬遠の気持ちもわからんではないが彼等はあたりはばからずわがもの顔でやってくるから逃げ腰では勝負にならない。

更に気になることの一つに犯罪の激増だ。殊に青少年の非行報道だ。いくら罰則を強化しても地金がよくならない限りどうにもなるまい。殊に児童生徒のいや幼児を

含めた人間教育だろう。その教育の場は学校と家庭だがその外に子供達の集団生活にも指導のメスが指摘される。集団生活が問題になるのは集団が小さなセクト的情緒が強くって広い連帯性にかける

と憂慮されている。

「教育ママ」の影響を強くうけるのかどうか知識偏重教育のなかで将来の人間像を画きながら子供達の多感な感情の起伏をどうリードするかは六ヶ敷しい仕事のように

会報発刊によせて

学校長 高根沢 富男



創立七十周年式典、幾多の記念事業を取上げ三千万余の予算で同窓会が中心となりPTAの方々も絶大な協力を寄せ合って三星期を経ました今日この情熱が凝って発散幾つもの無形・有形の成果を同

窓会、在校生、母校に貢献しておりますのでその一端を物語り更に繁栄の足掛かりといたします。八ヶ丘の故郷を真岡工業高校に譲り大野原に移り年とともに環境も落ちつき六千本に及ぶ新植した樹木もやうと緑濃くなり、農業高校の偉容を整えてきました。緑に囲まれた学園、どっさりした本館の正面に清らかな水が流れる噴水池、和と静かさを表現する地球を型取った水柱から太く地道に噴出する水柱はやがて白く磨かれた自分の体一ぱいに流れ落ち奥行十五米、間口二七米、水深八〇厘のゆったりした池に清水を満たしその静かな水域に囲りの緑と響き立つ時計台を深淵奥深く映しているその姿はこの学び舎に学び働く若い力をもつ生徒の微智を物語っています。

「深淵の池」と呼びたい。南棟の前に広く展開する芝生の庭は母

校の校風と生徒の「寛」を表現するもので農業者が作物を育て家畜を飼って自然の力と恩恵に敬虔の念をいだき只管に他人の立場を考える寛い心を根底とした生活を営まなければ自然と組みして自然の恵みを大地一ぱいに受け自分の技術と弛まない努力の結晶として生産される農業生産物は調和を失ない破壊して行くことを教えている

のがこの池でありましょう。この庭に赴任以来の念願をかきたくれたのが、「空池」「和の池」であります。三年間続いて卒業生が記念庭園造成のため貯えた資金に先輩同窓生の御力添えで二八〇万

の貴い工費で在校生七百余名が夏休み出校日に炎天下鬼怒川から一万個の玉石を探し求めて袋に入れかついで集積しました。汗と母校愛、勤労と感謝の美徳の集積です。その石が芝生の中央にゆつたりと流れる鬼怒の川を型どったのです。玄關前の変ることなく湧き出る水が深淵を湛え流れて止まぬ鬼怒川の水となり大海に注ぐそして又雲となり雨となり地球上の生物を育て宇宙の調和をたたく、これを表現したのが「和の池」であります。

一、自ら活動して他を働かしむるは水なり。

一、常に己の進路を求めて止まざるは水なり。

一、障害に遇い激してその勢力を百倍し得るは水なり。

一、自から潔うして他の汚れを洗い清濁併せ容るの量あるは水なり。

一、洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり、雲となり、雨となり、霧と化し雪と変じ凝って氷瑤瑤たる鏡となり而もその性を失わざるは水なり。共に働き、あくなき進路を求め、障害にあつても勇気百倍これをのり越え、度量を広くしてどんな困難にあつても主体性を失なはない。この水の心訓を思いおこさせる「和の庭」尊い景観です。この景観に是非添えたいのは東門の建立です。既に五十三年卒業生の記念事業が東門周辺の造園として資金目録が私の手に卒業式前日に贈られ五十四年中に完成を約束しましたが遂に実現

出来ず残念ですがどうしても本年は完成いたしました。この東門は七十年間に亘り一万余名の先輩が朝夕通るくぐった歴史を物語る四本柱の御影石門、八幡丘からこちらに運ばれたもので国旗掲揚塔と無二のものです。尋ね訪れる先輩の思い出深いものでありましょう。青銅光りをした福島御影石の正門、大きな三つの石塊、宇都宮一真岡街道に面してんと据えられてこの奥に芳賀と川西地域農業者を育てる農学の殿堂、静かで豊かで伸び伸びした学舎があるのだと行き通う人々に想い寄せられるのにふさわしい立派な門構えです。この門を建てるのに十七回の委員会を開いたことも有名な語り草であります。

三十名の全委員が出席する十七回の委員会を経ての記念事業は進められました。歴史に残る委員会です。門構一つ造るにも委員の集知刻み込みか、鋳造か、銅鋳造で田上委員長が自筆、六百年の歴史をもつ佐野の銅鋳造、門柱一ぱいに配置された銅鋳造重みが更に増した七十年の歴史を永久に続ける真農魂を表徴しているではありませんか。同窓会基金も設立、基金運営委員会も結成され、いやは上に同窓会の活動発展を目論み後輩の繁栄を主体とする記念事業であります。母校をあづかる校長としてこのような機会に同窓生各位と肝胆あい照し農業教育を通して全人教育に没頭し快適な勤務を続けられることは人生真利と感銘深く会報第四号発刊に創立七十年記念当時を振り返り現況をのべ心境の一端を披露して会員諸氏の益々の御健勝と同窓会、母校の進展を念願いたします。

随 想

同窓会副会長 沼 能 克 己

同窓会報に副会長として私の番だと注文をつけられたので、七十年代も暮切となり、新しい八十年代の元年とも言おうべく年を迎え誰もが明るい希望を持つようにしてほしいと思うので、所感を申し述べ御挨拶にかえさせて戴きます。昨年暮よりの世界の様相は「オイルショック」以来残念乍ら正に東西のつびきならぬ事態が惹起せんとして居りますが、それはそれとして平和と安泰を祈りつゝ政治におまかせする事にして、兎角人間は情性的な生活を続けがただから、新年は其の情性から一步でも前進する「チャンス」だと想い、新しい気分で行動すべきである。そこには今迄やり残した事もあり、是は今年も当然続けなければならぬし、努力したが出来なかったこと、中にはあきらめたもの、あきらめようと思うもの等がお互が沢山あるはずだ。

又なければならぬと思ひます。そこで気分を一新して、過去を反省し再度挑戦する事が大切です。一事の失敗も成功も人生双六の様な気がしてなりません。何れの職業も同じながら、特に自然相手の農業は、十歩進んで五歩もどり三歩進んで一回休み、悲喜こもごもの繰返しです。そこで一層汗を流し流した汗が無駄にならないよう知恵を出して万願成就いわゆる上り、又必ず物事には何んらか

の形で障害がつきまとうものです。先ず健康管理を充分にして、心身共に活力を満ちた事が最大の要素だと思ひます。良く老人でも、仕事を持てと言ふ通り、健康である限り、何かを通して悩み感を感じる人生を見え出さなければ、生きて居る、生きがい、生きて居る喜びを味う事があります。一つの喜びを得る為には、幾多永続的な、苦しみ打ち勝って吾がものにすべく、みんな手に手をたずさいて努める事が大切ではなからうか。

例えは学生ならば学生らしく其の本分を忘れずに、自分の学業を、尚一層の進歩を目指して頑張ることこれが最も大事な事だ。これまでにつまらない誘惑に負けたりはしなかったかを反省し明るい目的を立て、力強く進んでほしいものだ。複雑化して来た今の社会、近代的になって居るとは言い、機械化されない人間として、何時迄も人間らしい人間の心であるよう、私達老若男女の同窓会の皆様経済優先の社会とは言い、教訓が示す通り「今日あるを感謝し最善を尽す」ため常に「ボランティア」の精神を忘れず農魂を発揮して明るい希望を開拓しようではありませんか。

「一九八〇年代」に想う

衆議院議員 広 瀬 秀 吉
(二五回卒業生)

一九八〇年代の最初の新春を迎えました。「明けましておめでとう」と申し上げながら、何かしら「一九八〇年代」という言葉の重なる意味に、押しひしがれるものを感じます。果しなき未来を展望しつつ、八〇年代の重みを、その意味をじっくり考えて見たいと思います。

日本経済は一九六五年以降、高度成長の波に乗って発展を続け、生産第一、輸出優先のかけ声の下に、自由世界第二のGNPを誇る経済大国となりました。然し一九七三年秋の中東戦争、オイル・ショックによって、エネルギー、資源有限という条件の変化によって、深刻な経済危機を迎えるに至りました。この年を境に、資源、エネルギー小国日本は、高度成長に終りをづけ、低成長経済への移行を余儀なくされ、大量国債の発行による財政力を総動員してのテコ入れによって、辛うじて景気を維持して来ました。

地方国債に抱かれた財政経済の中で、漫性インフレ、物価高は進行し、更に国際緊張の高まり、エネルギー不安と、国際収支の悪化が一層経済成長の足をひっぱるといふ、基調的条件の変化があります。このことから八〇年代は不確実性の時代、灰色、不透明の時代といわれるに至りました。

改め、農民の立場に立つ農政に大転換させ、米の消費の拡大政策を強め、食糧自給率向上を具体化させ、農民の希望のもてる農政をつくり上げること。

その五は、物価安定とインフレの防止に全力をあげ、社会福祉後退を許さず、高令化社会への対応と雇用保障に、万道極なきを期すること。

狐塚校長を偲ぶ

大内支部長 大 塚 克 己

私は昭和九年四月より同十二年三月迄狐塚校長の教えを受けたので、昨年十月十七日九十四才の長寿を完うされて黄泉の客となられた恩師のご霊前に額突き、転々感慨無量嘆息の念を禁じ得ませんでした。

頃は昭和の風雲急を告げ、外にあっては満州事変から支那事変へと戦火が拡大され、内にあっては経済恐慌で国民生活も儘ならず、自力更生が叫ばれ農学を国家的必然の要請として尊重されて、強力に展開された時代でありました。

その時に当り狐塚校長を恩師として、将亦強力な指導者としてご薫陶を戴いた幸せを思い感謝の念で一杯であります。「今日あるを感謝し最善を尽して良き日本人たれ」の校訓は勿論のこと、「農業は神の代行者である」の信念を堅持して切り開くと、教えて下さったことは眼を閉じれば今も尚耳朶を打って参ります。又修身の授業は校長の担当であり、謹厳な面

その六は、公平な政治の実現である。分配の公平をはかり、低所得者に過重負担を強い、大衆増税を許さないこと。

このような政治を実現することによって、働く者が真に政治の主人公となる、希望のもてる八〇年代をつくるのが、私の新年の決意であります。

農業後継者について

真岡支部長 増 山 真 一

会報発行に当り真岡支部長より戦後の日本農業は昭和二十年代の食糧増産型農業から、三十年代の社会構造の目ざましい進展に伴い高収益高生産農業へ移行していった、我が真岡市も農業経営が大きく変化しその中でも施設等青果の栽培が高収益高生産を目標に導入され、栽培の多様性へ移行を続け今日に至った。特に苺栽培については市内農協が大々的に普及指導を行い所得の成果を挙げている特に中地区のメロン夏秋ナス等もその例である。しかしそれ等労働性に若干問題はありますが半面物価に対応した価格の順応性が今日まで隆盛を続けた要因と考えられる。しかし最近では永年の栽培の結果その後遺症とも言えるべき病害虫の発生や品質の低下が目立ちまた施設や

した。またこんなお話もされた。「私は且って大病を患ったことがある。死生の間を幾日もさ迷い続けた挙句に命を執り止めたので、今の命は新たに授かったものと思っている、だから何も恐るるものはない。」
思切ったことが出来るよ」と、当時は大野原開墾の最中であり、加えて昭和十年より二ヶ年間研究学校の指定を受けて、先生方も勤勉して居られた折りであります。たし、生徒にも実習に励み実習が課せられていたもので、これ以上強化されてはと冷たいものが背筋を走る思いで聞いたことでした。斯くして学校経営には家族制度によ

る新機軸が生まれ、三学年を縦割にして有機的な連絡プレーを持たせ自主性の喚起、責任感の養成等々他校の追随を許さない一大成果を収めるに至ったのであります。「猛将の下に弱卒無し」とは将に至言であり、当時の先生方を含んで私達に、人生途上最も大切な信念と勇気とを叩き込んで下さった校長として敬仰いたして参りました。幽霊境は異に致しましたが、孤塚先生より与えられました人生の指標を今も猶大切に抱きしめ且つ育てつつある教員が、多数存在することを確信を以て申し上げまして、先生を偲ぶがよすがとも致したいと存じます。

部長に就任して

青年部長 仙 波 登



作型の多様性による、健康阻害等後継者に及ぼす影響は非常に多いしかしこれ等は農協及び普及所等の指導に依りある程度解決出来るものと考えられる一方基幹作物である稲作栽培については米の過剰に依り水田利用再編対策等転作が余儀なくされるに至ったが、将来の農業に魅力持つ後継者育成することは仰々容易でない。
しかし私共青年時代の農業を考えれば例えは田植は手で植え収穫は手刈り脱穀は足踏み機を利用し、「土づるす」「トオミ」等に依り調整し俵に入れ出荷したもので、ところが現在はオートメー化し種子播きは納屋の中でも出来苗仕立はハウスの中で行い田植機を使用し除草は農薬を使い収穫はコンバインで刈取り乾燥機に入れば一晩で米の、調整を行い出荷出来るという投資面は大変だが能率的で神業の様である又農業は他の工場勤務やサラリーマンと異り時間に制限が無く自由時間は取れるし努力次第で自分の所得になると云うことな良い職業は他には無いのであります。
以上の様な一例を挙げただけでも喜んで農業の後継者かと思ふと仲々困難であります。
したがって真岡市や各農協も結婚相談員を委託し該当事者の名簿を作成し年に何回か交流を計って居りますが残念ながら五十三年度は真岡市全体で一五組しか出来なかつたようです。

たようですそこで成果を挙げるには次の様な事を考え実行したならよいのではないかと思います。
一、農家の親は嫁をもらうことばかりでなく娘がいたら一人は必ず農家に嫁がせる。
二、結婚相談員の強化と待遇を図る。
三、青年男女のクラブ活動の機会を多くすること。
四、普及所農政事務所農協学校等のPRを徹底すること。
五、経営者自身が自己の職業に誇りを持って常日頃の談話を良くする以上後継者養成のため努力したいものだ。

青年部役員に就任して

青年部役員 小 口 登 輝 夫

光陰矢の如しと申しますが月日の立つのは本当に早いものです。私が母校を巣立ちましてもう十年と言ふ年月が数えられます。卒業以来現在に到る数年間に於ける我が母校のめざましい発展振りを目のあたり拝見いたしまして胸中深く感動を覚えた次第であります。実に感無量でございます。又そこで立派な母校を持つ私自身やはり自らプライドを持つてしっかりと大地に両足をふんはって生きて行かねばならないと深く自覚する次第です。
不肖私昨年母校の青年部の役員を命ぜられました次第ですが……何かを語れとおせられまして五里夢中の現在の私は当惑の壁に閉ざされた感じでございます。現在我が家では、米作、陸稲、干瓢、ビール麦、レタス、肥育牛数十頭、これが主なる経営でございます。
ビール麦で上三川町から選出されまして県から受賞を受けました時は農業に生きる私に取りますとやはり嬉しくよろこびを深く噛み



私の農業経営と理念

農業士 早乙女 俊夫

私は昭和二十三年シベリヤから復員し水田九ノアール畑八十アールの規模で農業を始めた。当時は機械力もなく牛馬による米麦干瓢その他いろいろな作物を栽培した時代である。その後昭和二十九年経営に畜産をとり入れるため納屋の一部を改造し牛豚各一頭を導入したその当時地域内に畜産農家が増加し流通の場をつくるために瑞穂野養豚組合が設立された飼育施設も年々拡大され農業近代化の波ののって地域の農業は発展したのである。

私の経営も水田二五〇アール玉葱五〇アール種豚二五頭の三本を柱に順調に伸びてきた訳であります。経営は専門的ではありませんが現在の石油危機であらゆる産業がゆれ動いていること畜産公害対策等を考えると私の経営は低成長ではあります。地域の条件に合ったのも復合経営であるため自由経済の変動にもあまり動かない経営型態だと思っております。

作目の選定も消費者があつての生産者が必要なので農業者もこの基本的な論理を先づ考え地域の条件なども総合的に判断した上で決定すべきであります。私も肉畜導入の動機は先づ第一に肉を食べてみてうまかつたこと戦前日本人は欧米諸国に比べて肉の消費量は極めて少なかったが戦後消費が伸び特に経済成長時の昭和三〇年代後半

学農に参加して

青年部長 仙波 登

快晴にめぐまれた昭和五十四年八月二十四日から二泊三日の日程で茨城県立中央青年の家を会場とした関東夏季大学に参加をしました。その内容等について会員の皆様に御報告申し上げます。

第一日が受付時間終了後、「農協のあり方」という題で、全国農協中央会常務理事である国井守正先生の講演を二時間にわたり聞いた訳であります。三年計画及び五年計画に基づいた農協と農家の運営の結びつきを事例に上げたとすらしいものであります。

優良農家紹介

第二日、午前中が分科会であり、各県から議題が上げられそれらを話し合いました。午後が総会。第三日、私の農業生活と人生観という題で農業経営士である佐々木斐夫先生の話しを二時間聞きました。先生自身の今日農業経営士になるまでの苦しく悲しかった事、あるいは嬉しかった経験を話になり、私自身無量になつた事を今でもあたたか昨日の様に思い出されます。

最後に、一人でも多くの後進達が学農に参加をして広い視野から何かを自分自身に見つけ、吸収してほしいと強く望む。

昭和五十三年度より本校卒業生のなかから優良農家を選び同窓会総会の席上表彰いたすことになりました。

氏名	卒年度	住所	経営概要
増山 勝義	十四年	真岡市東郷	水田一八〇アール(水稲) 畑二〇〇アール(飼料作)
細島 一郎	三十六年	真岡市東大島	水田一七〇アール(野菜) 室二五アール(トマト・胡瓜)
豊田 義雄	四十三年	二宮町横田	肉牛六頭(ビニールハウス三九〇) 水田一七〇アール(胡瓜)
飯村 博	四十四年	真岡市東大島	水田一七〇アール(胡瓜) 菜(ビニールハウス四七アール) トマト・胡瓜
仙波 登	四十六年	真岡市長田	水田一五〇アール(キク・陸稻) 温室一六アール(鉢物)
本橋 実	〃	真岡市若旅	水田二〇〇アール(畑四〇アール) 水田一七〇アール(畑四〇アール) 水田一七〇アール(畑四〇アール)
仙波 初雄	〃	真岡市柳林	水田二〇〇アール(畑四〇アール) 水田一七〇アール(畑四〇アール) 水田一七〇アール(畑四〇アール)

高根沢富男校長教育功労者として 文部大臣賞受賞

真岡農業高等学校校長高根沢富男先生には、三十有余年にわたる教育者としての功績が認められ、この度教育関係では最高の栄誉である教育功労者として文部大臣賞の受賞に輝きました。

受賞式は、十一月二十六日、東京の都道府県会館において行われ、先生はご夫妻で式に参列され

調和のとれた人間の育成をめざして

クラブ後援会係 高 垣 由 男

本校クラブ後援会の運営につきましては、日頃から賛助会員の方々とより絶大なご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。お陰様で各部の活動は、活発な活動が行われ、各種大会に於いて輝かしい成果をあげております。特に心身の変動の激しい青年期に於いて、知、徳、体の調和のとれた人間の育成が、高校教育に於いて最も重要なものであると考えます。

規律正しい部活動を通して培った根性が、卒業後実社会の中でみごとに開花結実してゆくのをみるとき、部活動の教育的意義を再認識させられます。

スクールバスも購入以来三ヶ年になりますが、交通費の生徒負担の軽減、時間の短縮等、数多くの利点があり、生徒達から喜ばれており、生徒会、農業クラブ活動に大きく貢献しております。

高校生の人間教育、健全な心身の育成には、クラブ活動の活性化以外には、ないと思っております。このことをご理解頂き、今後とも、ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

以下主な成果の発表

農業クラブ プロジェクト発表、関東大会出場
(農業経営) 加藤庄一他五名最優秀賞
(関連産業) 金子誠他五名優秀賞
(生活改善) 上野浩子他五名優秀賞

クラブ後援会予算案

収入の部	費収入	支出の部	費支出
1 収入の部	1,820,000円	2 支出の部	30,000円
(1) 会費	582,447円	(1) 会議費	30,000円
(2) 年費	5,000円	(2) 会費	2,145,000円
(3) 雑収入	2,407,447円	(3) 雑費	100,000円
		(4) 雑費	102,447円
		(5) 雑費	2,407,447円

編集 後記

この会報が、会員一人一人にもれなく配布されることを希望します。この会報発行を機会として、今後なお一層同窓会活動が活発になり、或は問題提起となれば幸だと思ひます。

原稿資料をお寄せ下さいました方々に、心からお礼を申し上げます。